

雄勝地域の

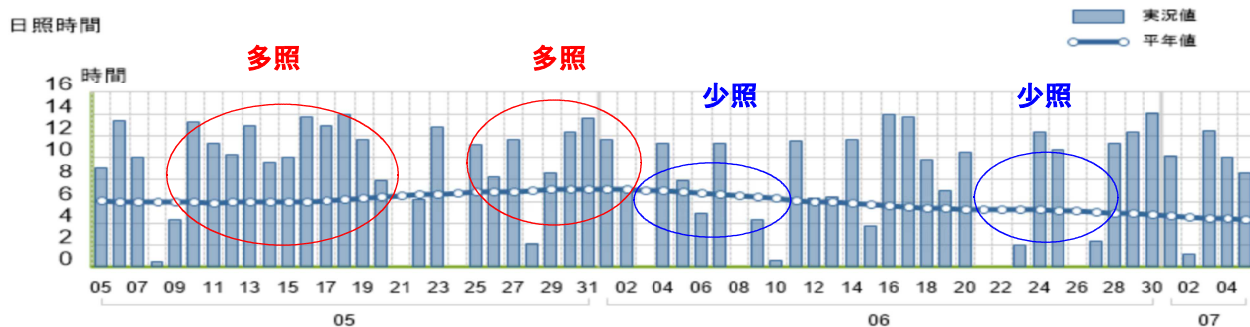
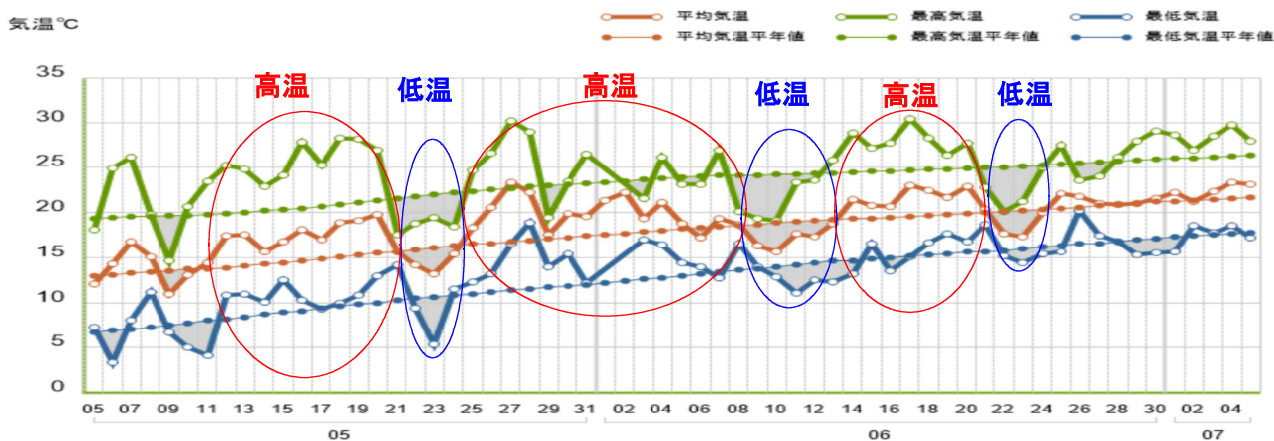
稲作だより

令和8年7月6日
雄勝地域振興局農林部
農業振興普及課
TEL 0183-73-5180
FAX 0183-72-6897

幼形期は平年より早まる見込み。中干しは幼形期までに終了！

～生育・栄養診断に基づく適切な追肥を～

【これまでの気象経過】（アメダス湯沢：5月5日～7月5日）



	平均気温（平年差）	積算降水量（平年比）	積算日照時間（平年比）
5月上旬	13.7℃ (+0.5℃)	28.5mm (110%)	65.8h (103%)
5月中旬	17.5℃ (+3.4℃)	0.0mm (0%)	114.2h (210%)
5月下旬	18.2℃ (+2.4℃)	48.5mm (163%)	86.8h (125%)
6月上旬	19.0℃ (+1.1℃)	14.0mm (80%)	59.0h (71%)
6月中旬	20.7℃ (+1.5℃)	2.5mm (7%)	94.6h (160%)
6月下旬	20.4℃ (+0.4℃)	56.0mm (108%)	65.3h (132%)
6月	20.0℃ (+1.0℃)	72.5mm (68%)	218.9h (126%)

【生育状況】

7月6日に実施した定点調査結果（あきたこまち8か所）は、草丈51.7cm（平年比98%）、茎数570本/㎡（同比116%）、葉数10.5葉（同差+0.3葉）、葉色（SPAD値）45.1（同比99%）となっています。

平年と比べて、草丈はやや短く、茎数は多く、葉数はやや多く、葉色は平年並に推移しています。田植えの早かったほ場では生育が早く進み、既に節間の伸長や幼穂の発育が確認されているところもあります。

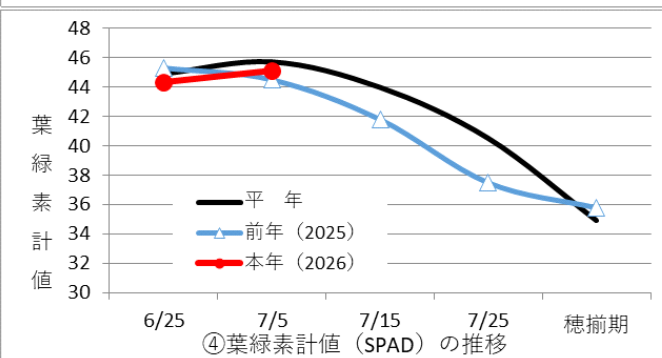
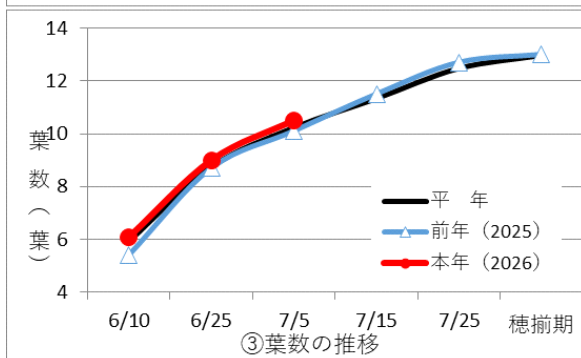
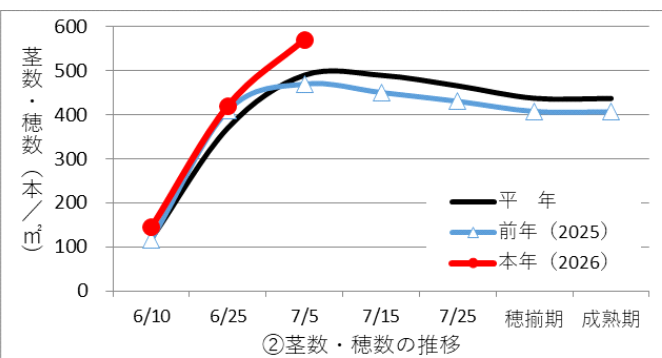
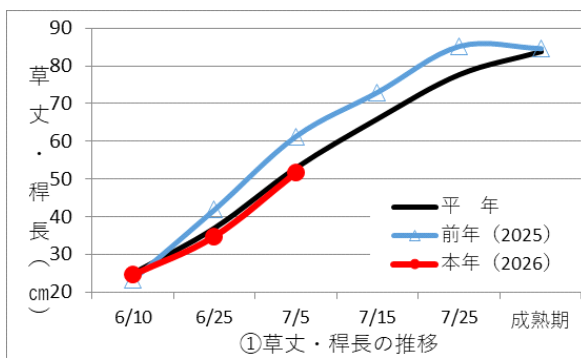
7月6日現在の定点調査結果における生育量や栄養診断値（下表）は、平年より大きくなっています。追肥の判断は、ほ場ごとに幼穂形成期を確認し、生育・栄養診断を基に慎重に決めましょう。

	6月10日調査結果			6月25日調査結果				7月6日調査結果			
	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
本年	24.6	145	6.1	34.8	420	9.0	44.3	51.7	570	10.5	45.1
平年	24.9	117	5.9	37	370	8.8	44.9	53	490	10.2	45.7
平年比	99%	124%	+0.2	94%	114%	+0.2	99%	98%	116%	+0.3	99%
前年	23.2	116	5.4	41.8	409	8.7	45.3	61.3	469	10.1	44.5
前年比	106%	125%	+0.7	83%	103%	+0.3	98%	84%	122%	+0.4	101%

※各数値はあきたこまち8か所の平均値

※田植日平均：本年5月23日（平年5月22日、前年5月22日）

※平年値は過去10年の平均値



○雄勝管内の7月6日における生育量と栄養診断値

	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD値)	生育量 ($\times 10^3$)	栄養診断値 ($\times 10^5$)
本年 (2026)	51.7	570	10.5	45.1	29.5	13.3
平年	53	490	10.2	45.7	26.0	11.9
前年 (2025)	61.3	469	10.1	44.5	28.7	12.8

※平年値は過去10年の平均値より算出

※生育量＝草丈 (cm) $\times$ 茎数 (本/㎡)、栄養診断値＝生育量 $\times$ 葉緑素計値

【当面の主要な技術対策】

1 中干しは幼穂形成期までに終了

平年より水稻の生育が進んでいるため、幼穂形成期は平年より2～4日早まると予想されます。

また、田植えが早かったところでは、既に節間の伸長や幼穂の発育が確認されているほ場もあります。

- ① 中干しは7～10日間程度とし、ほ場に軽く亀裂が入り、足跡のつく程度を目安とします。
- ② 幼穂の発育と一穂粒数の確保には、**幼穂形成期以降に、土壤水分が適切に維持されていることが重要**となります。
幼穂形成期に入ってからでも中干しを継続しているほ場が見られますので、適正な水管理に努めましょう。

幼穂形成期の生育予測

田植日	幼穂形成期	平年差
5月15日	7月7日	4日早い
5月20日	7月11日	2日早い
5月25日	7月14日	2日早い
5月30日	7月18日	2日早い

○品種はあきたこまち（中苗）

○田植え翌日から7月5日まではアメダス湯沢の平均気温を、それ以降は平年値を使用。今後の観測値によって、予測月日は変動します。

※幼穂形成期は幼穂長2mm期
（出穂20～25日前）

【生育が遅れ、茎数が不足な場合】

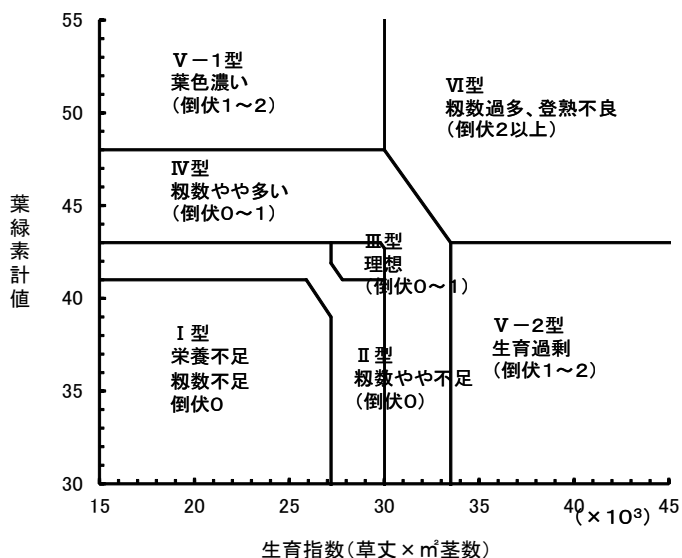
引き続き、浅水管理を行い、分げつの発生を促進します。

また、茎数が十分に確保できない場合は、強い中干しは避けてください。

中干し後は、きめ細かな間断かん水で、茎数（穂数）の減少を極力抑えてください。

2 あきたこまちの栄養診断（幼穂形成期の追肥判断）

- ① 田植え時期によって生育の差が大きいことから、必ず生育・栄養診断を実施しましょう。
穂肥は減数分裂期の追肥を基本としますが、**幼穂形成期（11葉期）の葉色が極端に低下すると、一穂粒数の減少や有効茎歩合の低下を招きます。**
生育量・葉色・幼穂の発育状況をよく確認しながら、幼穂形成期の生育型がⅠ型またはⅡ型に分類される場合は、窒素成分で2kg/10a程度を目安に追肥を検討してください。
- ② 一方、**幼穂形成期に葉色が濃く、草丈が62cm以上、または減数分裂期に草丈が74cm以上の場合、倒伏の危険性が高まります**ので、穂肥を控える他、必要に応じて倒伏軽減剤の使用も考慮します。
- ③ 肥効調節型肥料（100日タイプ）を使用あるいは育苗箱全量施肥を行った場合は、これから肥効が現れますので、基本的に追肥は控えましょう（生育状況によっては必要な場合もあります）。



生育型	窒素追肥量(kg/10a)	
	幼穂形成期	減数分裂期
Ⅰ型	2kg	2kg
Ⅱ型	2kg	2kg
Ⅲ型	ムラ直し1kg	2kg
Ⅳ型	なし	2kg
V-1型	なし	ムラ直し1kg
V-2型	なし	ムラ直し1kg
Ⅵ型	なし	なし

(注)目標収量 570kg/10a、あきたこまち

○幼穂形成期（11葉期：7月15日頃）における理想生育量（県南地域）

	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD値)	生育量 (×1,000)
理想値	62	463	10.9	42	28.7
上限値	64	484	11.0	43	30.0
下限値	60	443	10.7	41	27.2

※生育量＝草丈（cm）×茎数（本/㎡）

3 病害虫防除対策

【水稲主要病害虫の向こう1か月予報】（秋田県病害虫防除所6月30日発表）

病害虫名	発生時期 感染時期	発生量・感染量	
		現況	予報
いもち病（葉いもち）	早い	—	平年並
紋枯病	やや早い	—	多い
稲こうじ病	—	—	やや少ない
斑点米カメムシ類（第2世代）	早い	やや多い	やや多い
アカスジカスミカメ	早い	平年並	平年並
アカヒゲホソミドリカスミカメ	早い	多い	多い
コバネイナゴ	—	平年並	やや多い

【いもち病（葉いもち）】

病害虫防除所が発表した発生予報（7月予報）では、葉いもちの全般発生開始期は早い、発生量は平年並と予想されています。

BLASTAM法によるアメダス湯沢での感染好適判定では、6月22日、23日に感染好適条件、6月9日、26日に準感染好適条件が訪れていますので、本田の発病状況をよく確認してください。



＜取置苗を直ちに処分しましょう！＞

取置苗は、いもち病の発病の有無にかかわらず、**直ちに泥の中に埋めて処分**してください。

＜今後の防除対策＞

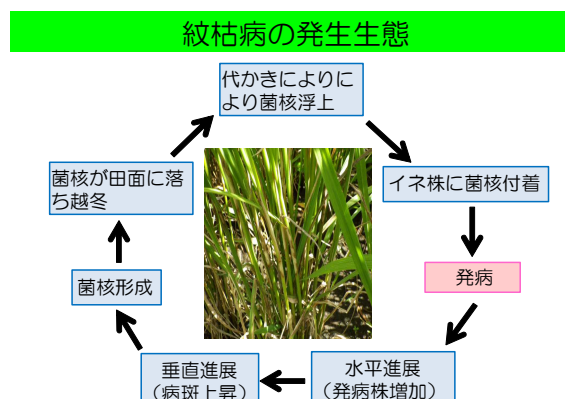
- ① 水田内で発病を確認した場合は、直ちに予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン剤又はノンプラス剤）の茎葉散布を行います。これまでに葉いもち防除剤を使用した場合でも、速やかに茎葉散布を実施してください。その後、必要に応じてビーム剤の追加防除を行います。
- ② なお、テブフロキン剤（トライフロアブル）の本田での総使用回数は2回、フサライド剤（ラブサイド剤）とトリシクラゾール剤（ビーム剤）の本田での総使用回数はそれぞれ3回以内ですので注意してください。

【紋枯病】

紋枯病の発生時期はやや早い、発生量は多いと予報されています。前年に発病したほ場では、十分な注意が必要です。

また、出穂の早い年や出穂後高温多湿の気象条件では上位の葉鞘まで病斑が垂直進展しやすくなります。

穂ばらみ期～出穂期の発病株率が15%を超える場合には、減収のおそれがあるので、出穂直前～穂揃期に茎葉散布剤による防除を行います。



＜前年多発ほ場での防除対策＞

前年、紋枯病が多発したほ場で、本病を対象とした育苗箱施用剤を使用していないほ場では、出穂15～5日前にリンバー粒剤、又は出穂20～10日前にモンガリット粒剤で防除を行います（粒剤の散布時期は、茎葉散布より早く、発病前になるので注意してください）。

【斑点米カメムシ類】

斑点米カメムシ類の発生時期は早い、発生量はやや多いと予報されています。

出穂しているイネ科雑草が見られる畦畔では、出穂していない畦畔と比べて斑点米カメムシ類の発生量が多くなるため、畦畔や農道の草刈りを徹底し、発生源を断つ必要があります。

＜今後の防除対策＞

① 畦畔除草の徹底

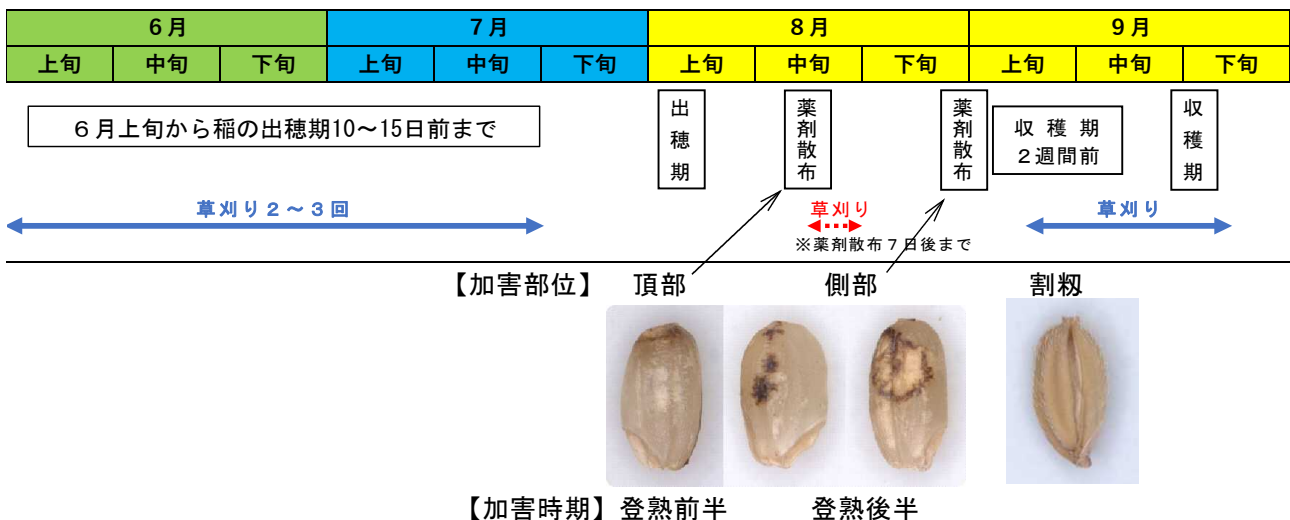
6月上旬から稲の出穂期15～10日前まで、繁殖地となる農道・畦畔、休耕田等の除草を地域でまとまって行います。アカスジカスミカメはイネ科雑草の穂を好んで産卵し、増殖します。

1回目薬剤散布（出穂期10日後頃）の7日後までに畦畔・農道の草刈を行い、発生源を絶ちましょう。

② 適期薬剤散布

- ・ 1回目茎葉散布剤：出穂期10日後頃
- ・ 2回目茎葉散布剤：出穂期24日後頃

スタークル粉剤DL・液剤、アルバリン粉剤DL
キラップ粉剤DL・フロアブル、
エクシード粉剤DL・フロアブル※
※ エクシード剤は、ウンカ類にも効果が高い。



【向こう1か月の天候の見通し（7月4日～8月3日）】：仙台湾気象台、7月2日発表
平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みで、気温は高い見込みです。期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。

- 1週目（7/4～7/10）：気温は、高い確率が60%です。
- 2週目（7/11～7/17）：気温は、高い確率が60%です。
- 3～4週目（7/18～7/31）：気温は、平年並か高い確率がともに40%です。

次の発行は、7月中旬の予定です。